絶滅のはなし　2

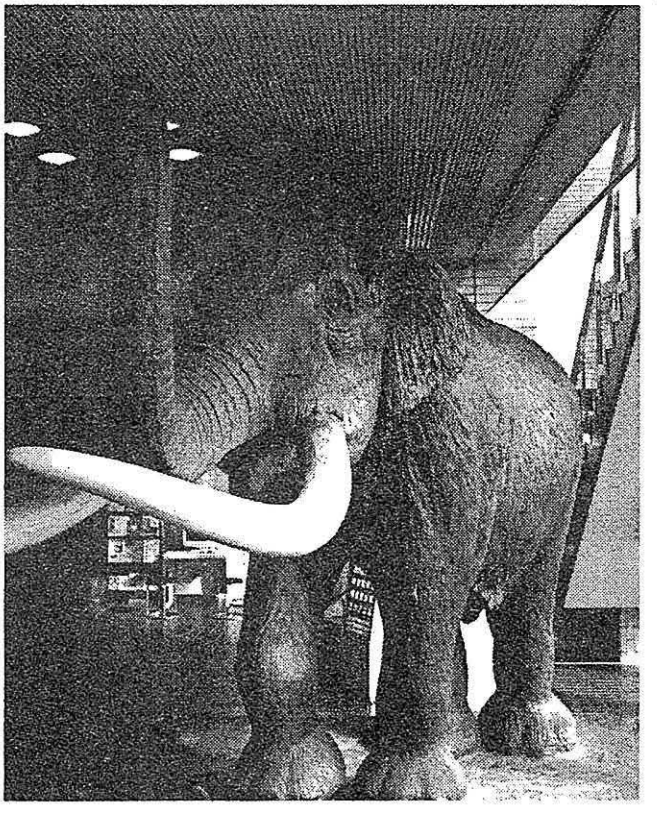
先月号のリーフレットで，大絶滅（大量絶滅）についてお話ししましたが、今月ももう少し、絶滅についてお話します。

地球の生命は，何度か大絶滅という事件を経験しました。これは，数百万年という私たちには想像もつかないような長い間気候が寒冷化するなどして，環境が厳しくなることで引き起こされたようです。しかし，寒冷化した過酷な環境は永遠に続いたわけではありません。冬の後に春が訪れるように，世界は徐々に温暖で生物の住みよい気候に回復していきました。そして新しい生物が繁栄しました。例えば，中生代には恐竜などの八虫類が優勢な動物でした。ところが中生代末の大絶滅で恐竜は姿を消し，その後，ホ乳類が世界にあふれ出しました。ネズミ，コウモリ，ウマ，少し遅れてクジラやイルカ。そしてさらに遅れて私たちの祖先であるサルの仲間が現れることになったのです。もし６５００万年前に恐竜を滅亡させる大絶滅が起こらなければ，私たちが地球上に生まれることはなかったでしょう。このように大絶滅は，生物の進化において重要な役割を果たしてきたのです。

さて，いまお話ししたように，中生代末の大絶滅の後，現在も含めてホ乳類が繁栄している時代を「新生代（ホ乳類の時代）」といいます。新生代は比較的温暖な時代ですが，何度か気候が寒冷化し，ごく小規模な大絶滅が起こったと考えられています。最近では 1 万 8000 年前をピークに 1 万 1000 年前頃まで気候が寒冷化し、大型のホ乳類が姿を消しました。クマほどの大きさのビーバー、２メートルもの角をもつウシ、高さ６メートルのオオナマケモノ、いまよりも大きかったゾウやライオンなどです。しかしこの最後の絶滅には人類も関わっていたのではないかと考えられています。人類は 400～300 万年前頃に現れましたが、1 万 1 千年前にはすでに槍や鏃といった狩猟用の武器を持っていました。気候が寒冷化すると

同時に、強力な武器をもった人類による狩猟が生物を絶滅に追いやったとも考えられています。

５月２８日まで、科学文化センターではプラネタリウム春の番組「ナウマン象は見た」を投映しています。春の星座の解説とともに、地球の気候変化や絶滅のことについても学ぶことができます。また２階ロビーでは「ロビーでかいま見る生命の歴史」と題し，三葉虫からマンモスまで，さまざまな化石を展示しています。ぜひ科学文化センターにお越し下さい。お待ちしております。　（田中　豊）



ナウマンゾウ
ナウマンゾウは約１万5000年前に絶滅しました。

富山市科学文化センター
〒939-8084 富山市西中野町1-8-31（TEL. 076-491-2123）
http://www.tsm.toyama.toyama.jp

平成１２年４月１日